



宇宙産業の飛躍に向けて

SJAC並びに会員企業の皆様におかれましては、健やかなる新年をお迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。

2009年の世相を表す漢字として、日本漢字能力検定協会の公募では「新」が選ばれました。日米の新政権誕生やスポーツ界の新記録、新型インフルエンザ等から推す声が多かったとの事です。また「ネット今年の漢字」では、「迷」が選ばれたようです。政権交代による政治、経済の「混迷」がその理由です。宇宙産業に目を転じると、新しく制定された宇宙基本計画への期待が膨らんだ一方で、事業仕分けでの厳しい評価による停滞感もあり、「新」と「迷」が混在した一年でした。しかしながら、そのような中でもこれからの宇宙産業の飛躍に結びつく大きな出来事がありました。2009年9月の新型ロケットH-II B打上げと新しく開発された宇宙ステーション補給機 (HTV) の成功です。

予定時間通りの打上げと軌道上オペレーションは、日本の実力を世界中の宇宙関係者に示しました。JAXA殿の取りまとめの下、10年以上に亘る開発に携わったプロジェクト関係者の「血(知)と汗と涙の結晶」です。当社は、HTVの航法誘導制御を担う心臓部ともいえる電気モジュールを担当させて頂きました。秒速8kmの超高速で飛行する宇宙ステーションに自動制御で寸分の狂いなくHTVを接近させる高度な技術は、各種地上実証や先行プロジェクトでの軌道上実証等、関係者の努力の賜物です。また

技術開発だけではなく、NASAとの接続試験や100回以上に亘る運用訓練等地道な準備の積み重ねが成功を支えたことも忘れるわけにはいきません。HTVは、新年度から宇宙ステーションへの輸送機として本格運用に入りますが、今回の成功は、NASAからも高い評価を受けており、「HTV近傍接近システム」がスペースシャトル退役後の米国宇宙貨物輸送機シグナス用機器として採用されました。我が国の技術が宇宙先進国である米国NASAに採用されたことは、当社のみならず日本の宇宙産業に係わる方々に大きな希望を与えるものと考えます。

また衛星事業では、当社が「気象衛星ひまわり8・9号」を熾烈な国際競争を勝ち抜いて受注するという大きな成果がありました。現在運用中の「ひまわり」は、米国製ですが、「ひまわり7号」が本運用に移行する今年の5月から約20年間に亘り、国産衛星が日本を始め、アジア地域の気象データを広く国内外の方々に提供し続けることとなります。

昨年制定された宇宙基本計画では、宇宙開発利用の促進による国際貢献や豊かな生活を安心して送れるような国民生活の質の向上を目指した基本的な方向性が示されています。本年は、宇宙基本計画の確実な実行に向け、SJAC会員の方々とも連携して、関係各方面への提案活動を展開していく所存です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。